

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A棟)

事業所番号	0272600412		
法人名	倉石ハーネス株式会社		
事業所名	グループホームいこくま荘		
所在地	青森県下北郡風間浦村大字易国間字大川目17-2		
自己評価作成日	平成22年9月18日	評価結果市町村受理日	平成23年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「やわらか空間のなかで、一人ひとりの思いを大切に愛情豊かな援助を心がけます」のもとに職員一人ひとりが常に理念を心に留め、利用者の想いを尊重し、愛情豊かに接し、安心して生活できる空間の提供を心がけています。また、地域の方がいろいろなことでお困りの際は、いこくま荘に相談に来て、頼りにされる関係作り、環境づくりに努め、気軽に立ち寄れる場所にしていきたいと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.aokaigoyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272600412&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年10月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者や職員は地域密着型サービスの役割を理解し、共に考え独自の理念を作成している。施設行事を開催の際は地域へ声がけを行い、参加を呼びかけるほか、地域での行事へも積極的に参加し地域の交流に努めている。個々の利用者がその人らしく暮らせるよう、職員は利用者の思いや希望を把握することの重要性を認識し、把握に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げただけで終わらないよう意識しながら日々取り込んでいる。また、職員入社時にも各自に説明している。日常生活の中で理念が反映されてはじめてその意味がある。改善すべきところは会議等で話し合い職員間での共有化を図っている。	管理者及び職員は、地域密着型サービスの役割を理解している。全職員で話し合い施設独自の理念を作り上げ、サービス提供場面に反映させるよう徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事に出来る限り参加し、施設の行事参加への呼びかけを行い地域との関わりを大切にしている。行事以外にも気軽に地域の方々が遊びに来れるような環境づくりに努めていきたい。	施設行事を開催の際は地域へ声かけを行い参加を呼びかけるほか、地域での行事へも積極的に参加し、地域住民や婦人会や老人クラブ等の方々との交流にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の皆様に施設主催の夏祭り等に参加していただいたり、その他の行事、ボランティアへの参加、交流に努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、推進会議を開催し利用者の状況、現在行っている取組みを話し合い意見をサービスに活かしている。意見、指摘等があったことに対して真摯に受け止め、更なるサービス提供出来るよう取組んでいる。	地域の民生委員や家族代表、行政担当課等が構成員となる運営委員会を2ヶ月に1度開催しており、行事や施設運営について地域の協力を得られるよう積極的な具体的な意見が出されている。自己評価や外部評価の報告も行い委員の意見を参考に改善や対応についての取組み等を行いサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が主体となり随時相談情報交流し、向上に取り組んでいる。今後も密に連携し、よい関係を育てて行きたい。事業所の状況を連絡し、連携を深めると共に良い関係が築かれていけるように努めている。	村には発行する毎に施設だよりを届け、自己評価や外部評価の結果についても報告書を提出し周知及び理解を図るほか、運営推進会議に行政担当課が参画している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>「私達の都合」、また「言葉による拘束」が行われないう、利用者の意志や行動を尊重しながらのケアに努めている。玄関には施錠を行わず(日中)見守り、各棟連携して協力体制にて対応している。常に私達の都合が優先しないよう、特に言葉での拘束に対しては、職員間で話し合い意識を持って考えるよう努めている。</p>	<p>管理者及び職員は、外部研修や内部研修を通じて拘束について理解しており、一緒に見る・聞くことを大事に本人の視点に立つことで拘束を行わないという姿勢で支援している。やむを得ない場合については、同意書が整備され家族へ説明し、了解を得ている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>不適切なケアが行われないように常日頃から意識し、職員間での申し送りの徹底に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関して、職員一人ひとりが十分理解出来るように外部、内部問わず研修に出かけ更なる資質向上に努める。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>相談から、入居の流れの中で契約時に十分な説明を行っている。理解しきれいな部分に関してはその後も説明し、理解、納得を得られるように努めている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>座談会を定期的に行き、利用者の意見、要望を聞き入れ充実した日々が送れるように支援している。玄関に意見箱を設置している。苦情のあった場合は職員間で速やかに話し合い、対応し反映させている。</p>	<p>面会時には家族に個別に声掛けしている。運営推進会議には家族代表者が参画し、具体的意見や要望が出されるよう働きかけている。重要事項説明書及び玄関に内部および外部の苦情窓口を明示しているほか、職員が目につきにくい玄関に意見箱を設置している。また、家族懇談会を定期的に行き、気軽に意見が言える環境づくりに努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全体会議また、ユニット会議で意見を述べる機会を設けている。常に話し合える場面を作り、反映させ、職員一人ひとりの志気の向上に努めている。理念にもとづく、事業所の方向性を全員で共有している。	毎月職員会議を実施し、運営方法や日々のケアについて協議する機会を得よう努めているが、会議への職員の出席率が思わしくない。出された意見等は必要に応じ、運営者や管理者で協議され、可能なものは取り入れる等、柔軟な対応をしている。	会議への職員の出席率が思わしくないため、利用者に必要な支援をするためには運営や管理について現場職員からの意見や情報を取り入れることが重要であることを指導する等、職員会議に対する職員の意識を変えていく取り組みに期待したい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが負担にならないような勤務調整、説明、理解を求め対応している。出来る限りの職場環境、待遇条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各委員会にて、不定期ではあるが内部研修を行っている。個々のレベル、スキルアップのために職員育成体制があり、資格取得支援も積極的に行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の同業者、相互訪問の機会に関しては徐々に交流の機会を増やし、サービスを向上させていく。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の言葉、要望、不安すべてを受け止め傾聴、受容し話しやすい環境づくりを行い、信頼関係が築けるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と同じように聞き取りの時間を十分に設け、信頼、協力関係が築けるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族が必要とされることを聞き取り把握し、必要とするサービスを見極め最も良い支援が出来る様他の機関とも連携し、取り組んでいる。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から教えられることも多い。学ぶ気持ちを忘れずにご本人の意思の尊重し、尊敬の念を忘れずに自立支援、自発的な行動を大切に、同じ目線であることを大切にしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、本人の互いの意向を尊重し、協力体制を大切にしている。電話での近況報告、行事への参加、家族会の活動を中心に施設への環境整備等の参加への働きかけ、参加しやすい環境づくりを行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙での交流は自由であり、また、出来る限りなじみの関係が継続できるように取り組んでいる。利用者の友人、知人には、気兼ねなく面会していただき、関係が継続できるよう支援している。	アセスメント時に利用者及び家族によく聞き取りを行うほか、日々の関わりの中で利用者の意向の把握に努め、行きたい場所への柔軟な支援等を行っている。また、手紙のやり取り等の支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握、考慮し、席の配置換えを行ったり、両棟の行き来を制限せず自由に行き来することにより、なじみの関係が保てるようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院また他の施設への入所のため退所となった利用者のお見舞いに行ったりかわりを持ち、退所となった家族の相談にも応じている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の普段の何気ない会話から、要望等意向の把握に対処できるよう個々の担当者が中心になって、職員間での情報収集、交換が行われている。本人からの思い、表現が難しい場合であっても仕草等から思いを汲み取り職員同士で話し合いを行い取り組んでいる。	利用者の話を聞くことを優先し、日々の会話や関わりの中から希望や意向を把握している。また、必要に応じ利用者の家族、親戚等関係者から聞き取りを行う等、常に利用者の意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメント、入所前の生活歴等の把握に努め安心して生活できるよう日々配慮している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りの際、口頭で伝えた後、連絡ノートに記載し、介護職員、看護師が心身状態の現状把握に努め、速やかな対応を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との話し合いを元に普段の生活状況、記録、職員の意見を取り入れてプランの作成を行っている。状況の変化等があった場合には速やかに話し合いを行っている。	計画作成時に家族等からよく聞き取り、日々のケアの中で声掛けをし、意見を聞くよう努めている。また、計画には職員の意見を反映しており、個々の計画に職員会議で議論し、利用者本人の状態等が変化した場合等必要に応じて随時見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況、様子はケース記録に記入しているが、共有できずに実践されていることがある。また職員一人ひとりが変化等あった場合細かく説明し、把握できるようにしていきたい。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況、家族の要望に応じて、関係機関、関係事業所、各分野との連携を図り、支援協力できるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社協のケアマネ、包括の職員等の連携を図っている。夏祭りの際は、消防団、婦人会地域の皆様の協力があり、何かと助けられている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の診療所医師が月1回訪問診療する等協力体制が整っている。受診時は利用者の体調を気遣っていただいたり、気軽に相談できる関係作りを築いている。従来からのかかりつけ医は継続し、家族に通院の支援もお願いしている。	これまでの受療状況を把握し、状態や希望にあわせて医療機関を受診している。また、協力医療機関を確保し、いつでも医師と相談できる環境にあるほか、日常的なケアについては看護師資格のある職員が相談や指導にあたっている。家族へは定期的な報告をし、緊急時には随時連絡や話し合いを行い、必要時には家族対応で通院する等連携を図っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の生活全般の把握、介護職員からの気付きの報告に対し意見交換、支持をもらう体制作りが整っており、利用者の安心にもつながっている。准看護師より正看護師への報告、連携も整っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には職員が面会したり、精神面の緩和に努めている。また、病院関係者、施設の看護師、家族等での話し合いを行い早期退院ができるよう努めている。退院後の取り組みを話し合い、統一したケアができるよう取り組んでいる。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化、看取りに関する説明を行っている。本人の状況、段階に応じ話し合いを設け、意思統一を図っている。本人、家族等の要望を聞き入れ、施設での生活のあり方、できる事できないことの対応についても十分に話し合う機会を設けて、家族への細かな連絡、主治医と連絡、報告を密にしている。	重度化した場合についての指針があり、近くの診療所とは必要な時には相談にのってもらえる関係にある。終末期については指針は作成していないが同意書が作成されている。重度化や終末期の在り方については事業所、家族、医師等で随時話し合いを行い、職員も話し合うことで意思統一が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時に適切な判断対応ができるよう、年に一度救急対応の講習会を行っている。時間がたつと職員も不安が大きくなるため、委員会を通して職場内研修として開催していきたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災避難訓練(主に夜間想定)を行っている。災害時に備え非常食、水等の確保もしている。いつもと違う状況があった場合は役場、消防に連絡するという協力体制がある。非常時等の職員連絡網がスタッフルームに貼り出している。	年2回昼及び夜間を想定した避難訓練を消防署の協力のもと、利用者とともにやっている。また、他地域で発生した災害の新聞記事をもとに職員間で話し合い、災害にどう対応すべきかを常に職員同士で考えている。災害時に備えて数日分の食糧及び飲料を非常時持ち出し袋として準備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対してのプライバシーや尊厳について会議等で話し合ったり、訛りが入っていても礼儀を忘れないような言葉がけが心がけている。守秘義務については入社時に説明している。	職員会議等において、業務繁忙時にも言動を拒否することのないよう、利用者に対する声掛け、接する態度についての確認を行っている。年長者に対する適切な言葉遣いとなるよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向、言葉に耳を傾けることを心がけ仕草や表情、雰囲気を感じ取り、選択する場面を大事にしたい。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りの希望に沿った支援を心がけているが、どうしてもその時希望に添えない場合は話し合い、可能な状況を検討し実施に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時にすぐ対応してくれる、なじみの美容院、理髪店が地域にあり、利用していたっている。身だしなみについても、職員同士声を掛け合い支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時、職員も同じ食事を一緒に摂り、会話をしながらコミュニケーションを図っている。おやつ作りを月に1度設け、作る喜び、楽しみを感じていただいている。個々の状況に合わせて、テーブル拭きや、配膳、食材の皮むき等お手伝いしていただいている。	職員が利用者個々の好き嫌い等に配慮しながら栄養バランスのとれた献立を作り、施設の畑から採れた野菜や近隣の方からの差し入れ等をメニューに取り入れている。また、職員も一緒に食事を摂り、さりげなく食べこぼし等のサポートをしながら会話を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の摂取状況を確認し利用者の健康管理に役立て、必要量を確保できるように嗜好品も取り入れ支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じ、毎食後、口腔ケアの介助を行っている。歯ブラシ、舌ブラシ等も利用者に合わせて使い分けている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パット、オムツに関して、必要に応じ職員間で話し合い、検討している。また、排泄チェック表でパターンを観察し、さりげない声かけ誘導を行い、プライバシーの配慮に努めている。	個々の排泄記録を作成しており、個々のパターンを把握した上で、手を出しすぎることのないよう自立に向けて羞恥心やプライバシーに配慮しながら支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に乳製品を摂取していただいている。排泄確認表にて毎日排便確認を行っている。腹部マッサージを行ったり、レクに体操を取り入れたりしている。また下剤使用のコントロールも行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯の希望はなかなか希望通りに支援できていないが、毎日の入浴希望は対応できている。身体状況に合わせて、2人対応し、安全でリラックスできる空間作りを心がけている。	基本となる入浴日は決めてあるが、入浴日以外の希望にも対応している。入浴を拒否する利用者に対しては、記録を確認しながら無理強いすることなく、時間差や対応者を変えて声がけする等の工夫をしている。また、近くに社協のデイサービス事業所があり、利用者の身体状態によって特殊浴槽を借用できるよう協議している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に足浴を行ったり、マッサージしながら傾聴に努めたり、安心して入眠出来るよう支援している。不眠時には、暖かい飲み物等を提供しリラックスし、安心して入眠出来る取り組みをしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2人体制で確実に確認(日付、氏名、朝食後等)後、飲み込むまで見守っている。薬剤処方箋、受診記録を職員間で共有し、把握に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる状況に合わせて、家事活動、を手伝っていただいている。身体機能低下により状況に合わせてレク等の活動の場面を提供している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	暖かい時期は、前庭等の散歩に出かけたり、外出行事も毎月あるが、冬場は外出機会が少なくなってしまう。利用者の希望がその日のうちになえられない場合は話し合いを行い、後日に個別のドライブや買い物に出かけている。家族の方が面会に訪れた際は、外出支援の協力を促している。	散歩や畑作業等日常的な外出を促し、利用者の希望に沿って近隣の親類宅、買い物、村の行事等、その日の状態や天候に配慮しながら外出支援している。また、季節を感じられるように桜や紅葉の名所等への遠出も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、施設でお預かりしている。家族の了解のうえ、状況により小額を管理していただき、必要時には、その都度お渡ししている。施設前の自販機、出入りしているパン屋さんで購入したり、通院時買い物している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使い家族に連絡を取れるようにしている。また、家族への年賀状を送ることは毎年行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度等）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけ装飾（利用者がお手伝いしてくれたもの等）、写真等居心地のよい安らげる空間作りをこころがけている。年間通して心地良い温度・湿度を調整し、清掃、整理整頓を心がけ、安全、快適を提供している。	落ち着いた色の家具を配置し、家庭的な雰囲気を演出している。室内の明るさはカーテン等で調節し、テレビ等の音量にも配慮し快適な空間作りが行われている。また、利用者と職員と一緒に作品を作り、玄関、天井や壁面等に季節間を感じさせる飾り付けをし、工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの食卓以外に、ソファを設置し思い思いの場所でくつろいでいただけるよう心がけている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、使い慣れているもの、好みのものの持込は自由と説明している。面会時にとった家族の写真等を貼ったり、穏やかに過ごせるように心がけている。	入所時や面会時には家族に声掛けし、馴染みの物を持ち込んでもらうよう働きかけている。入所者は好みのものや馴染みのものを持ち込み、施設での行事写真や作品を飾る等居心地よく過ごせるような居室作りが行われている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせた居室の配置。場所等の混乱がないように名前をつけ、配慮している。			